

# 令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

**調査期日** 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

**調査の対象学年** 小学校第6学年

## 調査の内容

### （1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。  
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

### （2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

|            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| 児童生徒に対する質問 | 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査       |
| 学校に対する質問   | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 |

## 教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。  
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問  
調査

## 佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

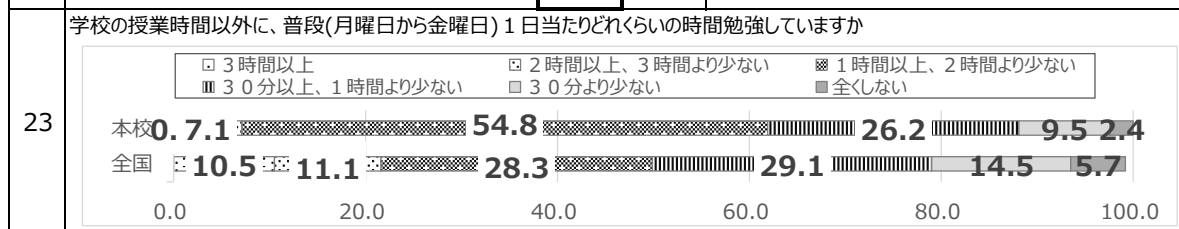
## 《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

| 質問<br>番号 | 質問事項                                                 | 本校<br>(%) | 全国<br>(%) |
|----------|------------------------------------------------------|-----------|-----------|
| 39       | 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた            | 57.1      | 77.6      |
| 42       | 学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている | 78.6      | 85.7      |
| 46       | 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしたり、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる  | 80.9      | 91.4      |

## 《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

|    |                                                      |      |      |
|----|------------------------------------------------------|------|------|
| 22 | 分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか     | 76.2 | 79.4 |
| 43 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか | 64.3 | 78.4 |



## 本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎対話や協働を通して学びを深めようとする意識が昨年度より増えています。

◎家庭学習に1時間以上取り組む児童の割合が、全国平均と比べて多くいます。

●学習課題の解決に向けて、自分から取り組むことについて課題が見られます。

●学習した内容を見直し、次の学習につなげることに課題が見られます。

## 《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

|    |                                 |      |      |
|----|---------------------------------|------|------|
| 8  | 自分には、よいところがあると思う                | 78.6 | 85.6 |
| 10 | 将来の夢や目標を持っている                   | 90.5 | 81.8 |
| 15 | 学校に行くのは楽しいと思う                   | 66.7 | 85.7 |
| 21 | 普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか | 88.1 | 92.5 |

## 本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎将来の夢や目標をもって生活している児童が多くいることがうかがえます。

◎人の役に立つ人間になりたいという思いが高く、他者への関心が育っています。

●学校にいくのは楽しいと思えるように教育活動を工夫してい必要があります。

●地域や社会との関わりを通して、自分も社会の一員であるという意識を高めていくことが求められます。

## 《質問領域：向社会性》

|    |                         |      |      |
|----|-------------------------|------|------|
| 14 | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか     | 95.3 | 95.8 |
| 33 | 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う | 71.5 | 80.1 |

## 調査結果を受けて

## 【学校では】

○授業と家庭学習を通して、児童の主体的な学びを目指しています。子どもの問いを大切に、自ら考えたり、学習方法を選択したりしながら学ぶ授業づくりを進めます。

○学習を振り返る機会を充実させ、自分の成長に目を向けさせていきます。さらに自分が選択した学習方法を振り返り、もっといい学びができるように調整する力を育みます。

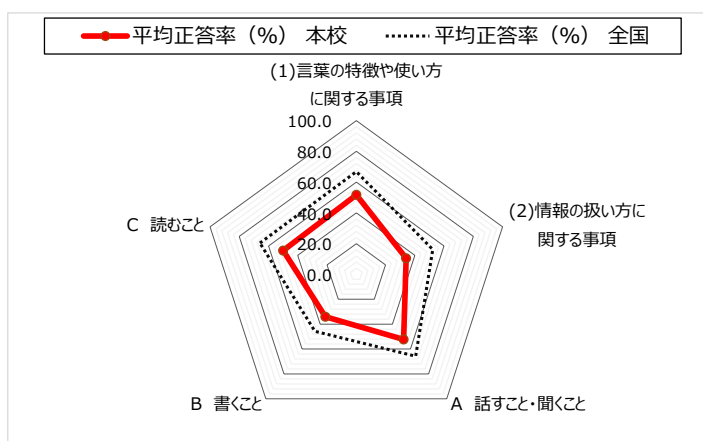
## 【ご家庭では】

○学年に応じた家庭学習の時間（10分×学年＋10分）を設定しています。子どもが自ら考えた取組に対して、「よくがんばったね。」「ここは、もう一度チャレンジするといいわ。」等励ましや見守りをお願いします。

○地域や社会の話題を家庭で話したり、関わる機会に積極的に参加をしてください。「ニュースを見て自分たちの生活とのつながりを考える。」「地域の行事に親子で参加する。」などを通して、社会の一員としての自覚を育んでいくことができます。

## 《学習指導要領の内容別 平均正答率》

| 学習指導要領の内容                |                        | 平均正答率 (%) |      |
|--------------------------|------------------------|-----------|------|
|                          |                        | 本校        | 全国   |
| 知識及び技能                   | (1)言葉の特徴や使い方に<br>関する事項 | 51.7      | 66.8 |
|                          | (2)情報の扱い方に<br>関する事項    | 34.1      | 52.3 |
| 思考力、<br>判断力、<br>表現力<br>等 | A 話すこと・聞くこと            | 52.3      | 65.8 |
|                          | B 書くこと                 | 34.1      | 45.7 |
|                          | C 読むこと                 | 50.0      | 65.9 |



## 《問題形式別 平均正答率》

| 問題形式 | 平均正答率 (%) |      |
|------|-----------|------|
|      | 本校        | 全国   |
| 選択式  | 46.7      | 61.9 |
| 短答式  | 50.0      | 62.6 |
| 記述式  | 39.8      | 54.9 |

## 結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 漢字を正しく書く力や自分の考えが伝わるように表現を工夫する力が概ね身に付いています。

● 話や文章の種類の特徴についての理解や話の中心が明確になるように話の構成を考える力に課題が見られます。文章が一番伝えたいことや、それを伝えるためにどんな構成になっているかを読み取る経験をさらに充実させる必要があります。

## 《正答率の高い問題》【強み】

| 問題<br>番号 | 出題の趣旨                                        | 平均正答率 (%) |      |
|----------|----------------------------------------------|-----------|------|
|          |                                              | 本校        | 全国   |
| 2三ア      | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる     | 86.4      | 80.0 |
| 1二(2)    | 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる | 61.4      | 63.2 |

## 《正答率の低い問題》【課題】

| 問題<br>番号 | 出題の趣旨                                                     | 平均正答率 (%) |      |
|----------|-----------------------------------------------------------|-----------|------|
|          |                                                           | 本校        | 全国   |
| 1一       | 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる | 45.5      | 73.9 |
| 3一       | 話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる                         | 52.3      | 76.7 |

## 調査結果を受けて

## 【学校では】

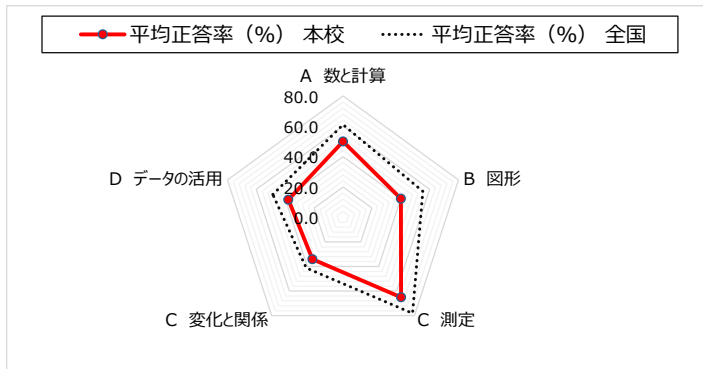
- 「主張と事例」や「理由と根拠」などの情報と情報の関係を正確に捉えることができるように指導を充実させます。そのうえで説明文の学習で文章の構成を読み取ったり、書くことの学習で構成を工夫して書き表す学習をさらに充実させます。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

## 【ご家庭では】

- 言葉や文章に触れる音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 家庭の中で本や新聞を身近に置いたりして文章を読む習慣を大切にしていましよう。いろいろな表現や用語にふれることで、「読むこと」を楽しめるようになります。図書館や本屋に定期的に行くことも、読書習慣をつける上でおすすめです。

## 《学習指導要領の内容別 平均正答率》

| 学習指導要領の内容 | 平均正答率 (%) |      |
|-----------|-----------|------|
|           | 本校        | 全国   |
| A 数と計算    | 50.0      | 61.1 |
| B 図形      | 40.1      | 55.3 |
| C 測定      | 65.1      | 78.1 |
| C 変化と関係   | 34.1      | 41.1 |
| D データの活用  | 37.8      | 48.6 |



## 《問題形式別 平均正答率》

| 問題形式 | 平均正答率 (%) |      |
|------|-----------|------|
|      | 本校        | 全国   |
| 選択式  | 52.6      | 56.0 |
| 短答式  | 46.2      | 59.7 |
| 記述式  | 34.9      | 48.5 |

## 結果 ※◎ (強み)、●課題

◎数の仕組みを理解し、条件に合わせて数字を使って表現する力が概ね身に付いています。また単位量あたりの大きさについて理解し、その違いを除法を使って判断することができるようになってきています。

●今回の調査結果を見ると、算数の内容別・問題形式別のいずれの観点においても、本校の平均正答率は全国平均を下回っています。特に「B 図形」の領域の正答率が低いことから、図形や量を具体的にイメージしながら考える力に課題が見られます。

## 《正答率の高い問題》【強み】

| 問題番号 | 出題の趣旨                                                              | 平均正答率 (%) |      |
|------|--------------------------------------------------------------------|-----------|------|
|      |                                                                    | 本校        | 全国   |
| 1(1) | 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる         | 79.1      | 72.7 |
| 2(3) | 単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる | 39.5      | 36.1 |

## 《正答率の低い問題》【課題】

| 問題番号 | 出題の趣旨                          | 平均正答率 (%) |      |
|------|--------------------------------|-----------|------|
|      |                                | 本校        | 全国   |
| 1(2) | 直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる | 37.2      | 63.0 |
| 1(3) | 体積の意味について理解しているかどうかをみる         | 16.3      | 40.1 |

## 調査結果を受けて

## 【学校では】

- 図形の授業では、実際に箱の形をした模型や積み木、方眼紙などを使いながら、手で触って確かめる活動を増やしていきます。教科書の図だけでなく、実物を動かしながら考えることで、形や大きさをイメージする力を育てます。
- 算数の時間には、「答えだけ」でなく「どうしてそう考えたか」を、自分の言葉や式、図を使って友達に説明する時間を大切にします。友達の説明を聞いたり、自分の考えを見直したりすることで、筋道を立てて考える力を伸ばしていきます。

## 【ご家庭では】

- 普段の生活の中で、「この箱はどのくらいの大きさかな」「お茶碗一杯はどのくらいの量かな」など、大きさや量について親子で話してみてください。実際に手に取ったり、比べたりする経験が、算数の理解につながります。
- お子さんが宿題や自主学習に取り組むときは、答えが合っているだけでなく、「どうしてそう思ったの？」と理由を聞いてあげてください。言葉で説明する練習になり、算数の力だけでなく、考える力全体を伸ばすことにつながります。